

第3章 炉端の会の活動記録 目次

| | | |
|-------|--------------|------|
| 3-1 | 日常活動 | |
| 3-1-1 | 床上公開 | 3-1 |
| 3-1-2 | 団体ガイド | 3-4 |
| 3-1-3 | 園内ガイド | 3-5 |
| 3-2 | チーム活動 | |
| 3-2-1 | 展示チーム | 3-6 |
| 3-2-2 | フリーガイドチーム | 3-8 |
| 3-2-3 | 障子張りチーム | 3-9 |
| 3-2-4 | 環境整備チーム | 3-10 |
| 3-2-5 | 英語ガイドチーム | 3-11 |
| 3-2-6 | 広報チーム | 3-13 |
| 3-2-7 | 草バッタチーム | 3-15 |
| 3-3 | その他の活動 | |
| 3-3-1 | 協力者会議 | 3-17 |
| 3-3-2 | 日本民家園協議会 | 3-18 |
| 3-3-3 | 生田緑地マネジメント会議 | 3-19 |

第3章 炉端の会の活動の記録

3-1 日常活動

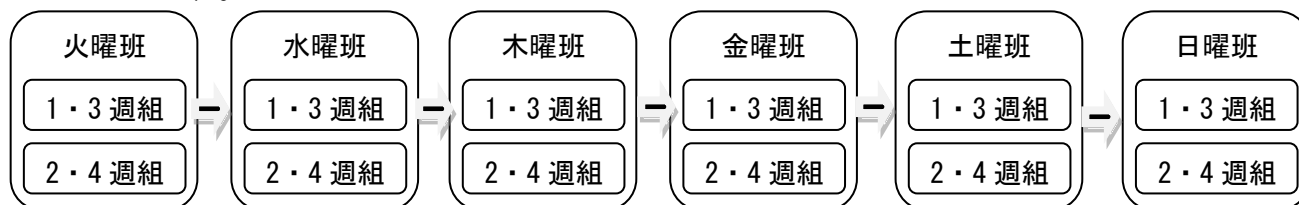
3-1-1 床上公開

炉端の会の主要活動である床上公開活動（公開棟での火焚きと来棟者への解説など）は、毎日、10時頃から冬季以外（3月～10月）は15時半、冬期（11月～2月）は15時まで行っています。

基本の活動

- 1) 火焚き：虫害・湿気から古民家を守ります。
- 2) 清掃：ホコリ・ゴミ・虫の巣等を除去します。
- 3) 来園者への対応：普段上がれない床上にあがっていただき古民家を体験してもらいます。また、質問などにも答えます。

このような活動を以下の班（組）に分かれ、連続して2週間同じ古民家にて行っています。



では、1日の活動の様子を見ていきましょう。

1. 朝の打ち合わせ

- ・ 9時30分に民家園集合
- ・ 園からの連絡事項の伝達と来園団体などの確認
- ・ 定時ガイドの担当を分担
- ・ 本日の古民家を割り当てる（最低3名で担当する）



2. 各古民家に移動

- ・ 民家園入り口の掲示板に床上公開棟の「お知らせカード」を貼る
- ・ マッチ、焚き付け用古新聞、当番日記などをもち各床上公開棟に移動する



3. 火焚き作業

- ・ 床上公開棟の看板掲出
- ・ バケツの水などを確認

火消壺の消炭、古新聞、焚き付けを囲炉裏にセットし、マッチで点火

(マッチと余った古新聞は必ず持ち帰り、所定の場所に戻す)



4. 棟の掃除作業

- ・ 火焚き作業と並行して棟内を清掃する
- ・ 床を雑巾で水拭きする
- ・ 一部の棟は、糠袋で床拭きする
- ・ 畳は、ほうきで掃き掃除する
- ・ 土間などもほうきで掃除をする



5. 来園者の対応 : 一般来園者

- ・ 来園者に普段見られない床上へ上がって貰う
- ・ 囲炉裏端を体験して貰う
- ・ 当該棟の特徴などを必要に応じて解説する



6. 来園者の対応 : 小学生の課外授業

- ・ 川崎市立小学校(3年)及び近郊の小中学校などの課外授業として、来園
- ・ 必要に応じて、生徒に易しく解説する
- ・ 時には、「脱いだ履き物」の扱い方などの躰を行う事もある



7. 火焚きの後始末、確認

- ・ 燃え残りを火消壺に移す
- ・ 灰をかぶせて炉端全体を消火する
- ・ 最後に炉端に蓋板を被せる
- ・ 鉄鍋の湯を処分して乾燥させ火消壺などと蓋板の中央に置く



8. 日誌の記入

- ・ 当番棟への来棟者数、薪の残量状況、当日の特記事項、連絡事項等を記述



9. 床上公開棟より退出

- ・ 囲炉裏周辺の消火状況を再確認
- ・ バケツの水等の確認
- ・ 床上公開棟の看板を片付ける
- ・ 全体が整理整頓されている事を確認
- ・ (マッチと古新聞を持ち帰る)



10. 事務所に集合し解散

- ・ 事務所に戻りマッチと古新聞を所定の場所に収納
- ・ 日誌などの各用具を収納
- ・ 民家園入り口に掲示していた床上公開棟お知らせカードを回収する
- ・ 散会の確認事項の取り交わし
” 今日一日、お疲れ様でした”



(編修委員 10期 土曜 水野)

3-1-2

団体ガイド

1. 経緯

団体ガイドは、会設立3年後の平成7年度から平日班で始められています。事前に園にガイド依頼があると、園から該当曜日の班長に連絡がありガイド役を探して実施していました（件数不明）。広報物やWebで周知して、2週間前までの申し込みには原則として応えるようになったのは、平成17年度からです。英語によるガイドは平成18年3月から開始しました（英語ガイド参照）。

2. 現在の流れ

会では各曜日班に「団体ガイド調整担当」を置き、園から団体ガイドの要請がFax・電話で入ると、ガイド役を班メンバーから探して承諾を得、担当職員に伝えます。英語によるガイド依頼は、園から英語ガイドチームに連絡が入ります。ガイド役には当日までに該当団体の「ガイド申込書」が渡ります。

ガイド役は会員の中で対応可能な人が引き請けます。園内ガイド（3-1-3参照）で少しずつガイドの経験と自信をつけてから、団体ガイドにデビューする方が多いようです。ガイド役は、団体の要望（所要時間、棟やエリア、解説内容）や年齢構成に合わせ準備をし、最終的には当日に団体代表者と話をしながら、できるだけ先方の要望に沿うガイドを心がけています。ご案内しながら、様々な質問への対応、疲れ具合、時にはルート変更など臨機応変な対応で、喜んでいただけることを目指しています。

利用された団体からは大変好評で、代表の方にお問い合わせをしたアンケートでは、「とても詳しく説明していただき良かった」「ただ見るだけではわからなかった、説明してもらってよかった」などのコメントが寄せられています。

毎年年度末には、各班の団体ガイド調整担当と職員による振り返りがあり、より良いガイドを目指してアイデアを出し合っています。

| 年度 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 団体数 | 33 | 72 | 95 | 96 | 104 | 92 | 127 | 141 | 169 | 128 |
| (内英語) | (1) | (10) | (12) | (11) | (17) | (12) | (17) | (19) | (18) | (29) |
| 利用人数 | 943 | 1693 | 2179 | 2412 | 2290 | 1943 | 2797 | 2877 | 2538 | 2796 |
| (内英語) | (67) | (162) | (200) | (215) | (261) | (165) | (256) | (289) | (328) | (488) |

英語ガイドはH18年3月から開始。

(編集委員 15期 日曜 木下)

3-1-3

園内ガイド

1. 経緯

広報をして定時に実施する園内ガイド（30分）は、平成17年度に園職員が交替で土曜日午後に始めました。翌18年4月から会の土日班（当時）で引継ぎ、19年4月から祝日午後（平日班で担当）を試行、同年6月から日曜日午後に試行、同年10月から祝日・日曜日の本格実施をしました。平成21年4月から平日午後と土日祝の午前の回試行を経て、同年12月土日祝の午前・午後本格実施、同年2月に平日午後の本格実施に至りました。

最初は団体ガイドで経験を積んだ会員で園内ガイドを実施していましたが、その後各班内で研修が進み、大勢の会員が交替で園内ガイド役を引き受けています。

2. 現在

現在は、7-8月を除く毎日、平日は13時から、土日祝は11時からと13時から園内ガイドを実施しています。午後の回は、園中央部の山下家前集合、午前の回は原家前集合です。園の成り立ち、概要などを簡単に説明したあと、30分で行けるところまでの各家の説明をします。参加者の反応を見ながら、臨機応変な解説を心がけ、山下家出発で、参加者全員が奥門から入園されたなら正門方面を目指すこともありますし、30分で一応締めした後、ご希望の方にはさらにガイドを続けることもあります。ガイド役は、本人の希望を尊重しつつ、各班で分担を決めています。

参加された方からは、「良く分かって楽しかった」「随分勉強になった」「感動した」「民家の構造の特徴が良くわかり、当時の生活様式などが想像でき大変良かった」等、またガイド役からは、「とても喜んでただけで嬉しかった」「熱心な方が多く1時間ガイドをした」「大工さんの団体で逆に教えていただいた」等のコメントが寄せられています。



園内ガイド

| 年度 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 回数 | 35 | 73 | 80 | 236 | 300 | 292 | 296 | 228 | 245 |
| 利用人数 | 249 | 572 | 864 | 2116 | 2313 | 1874 | 1608 | 1678 | 2100 |

（編集委員 15期 日曜 木下）

3-2 チーム活動

チーム発足の経過

2期 木・土曜班 渋谷 勇

平成17年、入場者減対応として民家園協力者会議が発足しました。

平成17年度に入園者増をはかる施策として、「炉端の会」としてお金をかけず気力と体力でできるサービスをしようと、園内サービス部会を発足し種々検討の結果、各チームが発足いたしました。(展示、障子張、環境整備、フリーガイド、その後英語ガイド、広報、草バッタチームと拡大し今後も発展する事を期待しております。)

炉端の会は、基本的に曜日別の縦型組織であります。チームは横型組織でありますので、チームが大きくなれば益々会全体の組織力が強力になると思います。

(※参照 2-1-1 会のはじまりと活動体制の経緯、
3-3-1 協力者会議)

3-2-1

展示チーム

チーム長 2期 木・土曜班 渋谷 勇

先人から継承されてきた伝統的な行事や祭事を展示継承することを目的とする。村ごとに展示民具の点検と清掃を行い、昔の暮らしぶりをお客様に見ていただき、懐古の情を楽しみ感動して頂くために行っています。また、将来は静態展示から動態(体感)展示に拡大展示する事が必要と考えております。

毎月次のような展示と撤去・収納作業をしております。

4月・・・五月節句の飾り付け。

5月・・・五月節句の撤去、マンガアライの飾り付け。

6月・・・マンガアライの撤去。

7月・・・盆行事(盆だな、砂盛り)の飾り付け。

8月・・・盆行事の撤去、十五夜の飾り付け。

10月・・・刈り上げの飾り付けと撤去、扱き上げの飾り付け。

11月・・・扱き上げの撤去。

12月・・・ヨウカゾウの撤去、正月の飾り付けと各地のしめ縄の展示。

1月・・・小正月の撤去、節分とヨウカゾウの飾り付け。

2月・・・節分とヨウカゾウの撤去、ひな祭りの飾り付け。

3月・・・ひな祭りの撤去、蚕影山縁日の飾り付け。

飾り付けと撤去には意外と手間と時間がかかりますので、お気軽に自由に参加してください。今後は、まだ整理されていない民具や古文書を整理して、できるだけ多くのものを展示していく事が必要と思います。

なお、サブ活動として次の事も行いました。

1. お客様に石臼の体験をしてもらうため、石臼の受け台の作成。
 2. お客様が民家園をどのように感じているかアンケートをお願いするため、アンケート投入箱の作成。
 3. 引っ越し作業軽減のため、まず全棟に道具箱と雑巾掛を置くため各20個作成。当初は菅原家から鈴木家への引っ越しもありました。
 4. 火焚き用具の整理整頓のため、鈴木家の横に付いている物置の中に整理棚を作成。
 5. 十五夜イベント用に外流し台の作成。
- 今後も出来る範囲内で継続していければ良いと思っています。

(※具体的な作業内容は、4-5 年中行事 参照。)

3-2-2

フリーガイドチーム

チーム長 2期 木・土曜班 渋谷 勇

入園者増（特にリピーター客）をはかる施策として「フリーガイドチーム」を立ち上げ、平成17年2月に活動を開始しました。各棟の年代、立地環境、構造、展示品、生業等々をお客様に分かり易くご案内して、感動と満足をしていただき、また家族や友達との再来をお願いしております。（チームは自由参加です、お気軽にどうぞ。）

最近、多人数の団体ガイド（50人から100人単位もあり）の応援や、炉端の会の新会員の研修ガイドも行っております。（現在行っている定時ガイドへと発展しました。）

・平成25年度までの実績は次のとおりです。

| 年 度 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ガイド人数（人） | 18 | 48 | 41 | 38 | 50 | 95 | 114 | 76 | 55 |
| お客様人数（人） | 47 | 259 | 221 | 205 | 270 | 513 | 620 | 486 | 310 |

・今後の目標と課題は次のとおりです。

1. 参加メンバーの増員をはかり、土日・祭日にはローテーションが組めるようにしたい。
2. ガイドがお客様と気軽に接触できる場所（控え部屋）を設けたい。
3. 奇数月の第三土曜日には、PM1時～3時まで原家2階でのミーティング（雑学勉強会）を継続していきたい。

・ガイドの心得

各棟の説明はさることながら、お客様に対するホスピタリティーの心（丁寧なおもてなし）が必要とされます。

・特記

平成26年9月に多摩区観光展示に、広報チームとコラボレーションで参加しました。広報チームが古民家のパネルや炉端の会の活動内容パネル等々を展示し、我々は来場者280人に対してきめ細かく案内と説明を5日間に亘り致しました。今後もチーム間の共同作業を拡大することが大切だと考えております。

3-2-3

障子張りチーム

チーム長 5期 日曜 三浦 政治

現在メンバーは6人で活動中です。

活動日は、毎月第3金曜日、および第4水曜日に来られる人が来て行っています。

ただし、障子が破れてみっともない時は、補修を適宜行います。

雨天の場合は活動中止です。古い障子紙を丹念にはがし、細川和紙を大きさに合わせて裁断、障子のりで張っていきます。紙も市販のロール紙ではなく、少々高価ですがこだわりの和紙を使っています。

以下の写真は、江向家の障子を補修中の様子です。



チーム長 10期 木曜 森川 洗之介

発足の経緯

協力者会議のなかで、民家園の活性化を目的とした諸策の一つとして園内に花壇や畑をつくる話が話し合われた。草花等が好きな人たちが集まり園内で使用できる土地を指定してもらい、「環境整備チーム」の前身を発足させました。

目的、主旨

園内の古民家にふさわしい雰囲気を作ろうと、江戸時代の民家周りに普通にあった植物を植えるという原則で、小さな畑で四季の農作物を栽培しています。さらに来園者の皆様にも楽しんで頂こうと花壇も作り、四季の草花も植えています。

活動内容

通常の活動は農作物、草花の栽培で、土作り、中耕、種蒔き、植付、除草、収穫等の農作業が主になり夏季冬季を除き、月2回汗をかいています。これに加え、以下のような活動も行っています。

- | | |
|----------|--|
| 生こんにゃく作り | 畑で栽培、収穫したコンニャク芋を使い、生こんにゃくを作っています。最近腕が上がり、美味しいこんにゃくがでるようになりました。 |
| お茶作り | 園内のお茶木から葉を摘み、昔使われていた蒸し器やホイロでお茶を作る実演を来園者に見てもらいました。 |
| 農作業体験指導 | 里芋を栽培し、園行事「お月見をしよう」で里芋ほりを子供達に体験させました。 |
| 樹木調査 | 調査結果をリストにまとめ来園者に情報提供するとともに、会員を集め樹木説明会を開催しました。 |
| 園外活動 | 彼岸花鑑賞（日向薬師） やまゆり鑑賞（武蔵丘陵森林公園） レンゲショウマ鑑賞（御嶽山）お茶づくり勉強会（狭山）など |

現在の状況

北村、江向、菅原家前畑 佐々木家前花壇で上記作業を継続し活動を行っています。また、本館前、三沢家裏庭、水車小屋前にはいくつかの草花を自生させています。

畑での農作業（北村家）



花壇の手入れ（佐々木家）



平成16年 第4期の炉端の会養成講習が終了時に、あるアンケート調査が行われた。

各人持っている技術、興味分野で民家園運営活動に使える、参加できる項目の申告であった。

この時、園芸、パソコン処理、接客、ガイド能力 などいろいろ出た中で、英会話、英語ガイドと申し出た数名の方がおられた。

木下前園長からのやわらかではあるが強い指示、桜井炉端の会会長（当時）からの後押しがあり、以前から英語ガイドの役を行っておられた火曜班の阿部さんなどと、この4期が参加、英語ガイドチームがスタートした。

とはいえ、当初は民家園を英語でどこをどのようにガイドするというツール資料はどこにもなかったので、皆で民家園用語集をふくめ、関連資料を持ち寄り、

“Guided tour in English” にまとめて資料化し、ガイドの参考とすることにした。

この英文ガイド資料の作成作業は、その4年後にチーム作業で行った、“日本民家園ガイドブック”の英語版刊行に結びつき、外国人来訪者に対するガイド内容手法についてよい勉強をする機会となった。

日本人なら、いわなくても当たり前前に知覚しているであろう事も、それが無い外国人には加えて説明する必要があることもある。

来場グループには、東洋日本文化研究する欧米大学グループ、日本への留学生研修グループ、都市間交換留学生グループ、在日外国人文化探求グループ、国際学部をもつ日本の大学、International School, Women's Club, 等のグループが過半数を占め、

丁寧な対応後、毎年レポートで来場するようになったケースである。

外国政府機関（観光局）、外国TV、新聞報道などメディア機関 への 英語ガイドは園の広報宣伝活動にも結び付くケースも多く、

New York Times（電子版）へのガイド：

日本に行ったら訪れるべき4つの博物館として紹介さる。

- タイ観光大臣へのガイド：
- ① タイTV 人気の日本旅行番組での民家園紹介
 - ② タイ国民家園との交流。交互の国で民家園紹介。
民家園 Web-site の相互リンク化

の展開をみせている。

（以上）



米 Florida 大学 東洋日本文化研究科への英語ガイド

1. 広報チーム発足の趣旨

生田緑地東口に新しく完成したビジターセンターに生田緑地で活動するボランティアの活動内容を紹介する掲示物（A3サイズ紙5枚程度）を1ヶ月間隔で掲示できる掲示板が設置されました。これを契機に「炉端の会」として、これらの諸媒体を活用し、「炉端の会」の様々な活動の紹介及びPRなどの広報活動を専任で行うチームが必要ではないかという機運と必然的なタイミングから結成されました。

2. 広報チームの経緯

2. 1. 平成24年（2012年）

①平成24年7月27日に原家2階にて、発起人である近藤会長の主催で第1回目の打合せが行われる。

発足時メンバー：飯久保（火曜）、野田（水曜）、森川（木曜）、広瀬（金曜）
土屋（土日曜）、川島（金曜）

メンバーは、各班代表及び班長会、フリーガイドチーム、環境チームなどのチーム代表などから構成されました。

まずは、「生田緑地ビジターセンター」の新設された掲示板に「炉端の会」活動紹介パネルの作成から作業を開始した。各メンバーとの情報の共有・連絡は、インターネットと電子メールを活用する事でチーム活動の迅速化を図った。

②平成24年9月1日「生田緑地ビジターセンター」への「炉端の会」紹介パネルの作成・掲示（基本的には、毎月更新）を開始した。

（平成24年10月（第2号）の「炉端の会」紹介の掲示パネル）



③平成24年12月 「炉端の会」会員用の名刺デザインと印刷依頼、配布手順を確立し会員からの名刺作成依頼の受付から制作・配布を開始した。

④平成24年12月 研修旅行の報告資料として、スライドショーを作成した。

2. 2. 平成25年（2013年）

①平成25年1月 「かわさき文化財フォーラム」での「炉端の会」の活動紹介用のプレゼン資料とスライドショーを作成し、プレゼンテーション時の支援作業を行った。

②平成25年2月 多摩区役所、「まちカツ！ポスター展」への参加用ポスター作成と展示作業を行った。

③平成25年4月 「炉端の会」ホームページ開設の検討をスタートすると共に民家園のホームページのリメイクに伴う意見交換を行った。

・ ビジターセンターの掲示パネルを民家園本館一階通路にも掲示を開始した。

・ 広報チームに新メンバー（辻）参加、計7名

④平成25年10月 「炉端の会」ホームページを開設した。

以降、毎月「炉端の会」HP（ホームページ）情報の更新とメンテナンスを行う。

⑤平成25年11月 研修旅行 工藤家贈呈品の作成、研修旅行の報告資料を作成した。



2. 3. 平成26年（2014年）

①平成26年2月 多摩区役所、「まちカツ！ポスター展」参加用ポスター作成と展示。

②平成26年3月 掲示パネルとして、コラムパネルを新規に作成し、掲示を開始した。

③平成26年4月 広報チームに新メンバー（佐藤）参加、計8名となる。

④平成26年9月 「輪ッ！和ッ！話ッ！多摩区の魅力大集合」のイベント参加に伴う展示物の作成及び多摩区役所 市民ギャラリーへの展示作業を行った。

・ 「炉端の会」発足20周年記念行事の様子や写真などをHPへ掲載した。

⑤平成26年10月 研修旅行 「菅原家訪問記念用の写真集」 編集・作成を行った。

⑥平成26年11月 研修旅行の集合写真、研修旅行の報告資料作成及びHPへ掲載した。

・ 「川崎市文化賞」受賞式典の写真撮影及びHPへ掲載した。

広報チームは、「生田緑地ビジターセンター内」の掲示板へ「炉端の会」の諸活動を紹介するパネルの制作・掲示からスタートし、約2年数ヶ月が経ちました。今では、「炉端の会」ホームページも必要不可欠な存在に育ってきましたのも会員各位のご支援のお陰です。

今年は、「炉端の会」発足20周年の記念行事に川崎市長がご列席され、さらに「川崎市文化賞」を受賞しました事は、広報チームとしても今後の活動に大きな励みになりました。今後も「炉端の会」の広報として、身近で親しみやすい情報を適切に様々な媒体を介して、内と外へ提供して行きたいと思っています。

（平成26年12月）

発足以来1年未満の出来たてほやほやのチームです。

チーム生い立ち

エコミュージアムせせらぎ館のボランティアのバッタづくりの名人から教えてもらった人が核になり、興味を持った人たちがバッタの作り方を習い、バッタを作れる人が順次多くなっていった。来園者の喜ぶ姿・顔を見るのが楽しみです。

前会長の近藤さん、現会長の野田さんが、草バッタ作りに興味のある人の名簿を作ったのが、バッタチームのもとになった。2014.3月に約30名のメンバーで発足した。

正式会則は、まだない。

活動方針

本来の火焚き作業の妨げにならない範囲での活動とする。

活動日に当番棟で余裕のある時（時間・心・体）に作る。

来園者に喜んでもらう。作品そのもので。作り方を習得して。

定例会で、情報交換を行う。

技術交流会でお互いに知っている技を教え合う。

興味のある人には、チームメンバーであるなしにかかわらず、作り方を習得してもらう。

作り方のやさしい習得方法を工夫する。

会則は、実際の活動内容に即した内容で後日まとめる。

活動結果

夫々の当番棟でのバッタ作り。

等々力競技場前広場でのフロンターレホームデーでの民家園イベントに協力。

炉端の会20周年記念日行事で、佐々木家にバッタの家開設。

特別依頼によるバッタ作成（英語ガイドチーム、畑山）。

これから

多くを求めず、ゆっくりゆっくり進んでいきたい。

炉端の会の会員で興味を待つ人は、作れるようになってほしい。

民家園の中にシュロ畑を作りましょうか？

技術の伝道師

せせらぎ館のバッタ名人：大島さん

棕櫚の葉虫の巨匠（来園常連者）：細井さん

参考書：「作ろう草玩具」 佐藤 邦昭著 築地書店発行
おまけの情報

棕櫚：ヤシ科。熱帯・亜熱帯地方原産。九州、近畿などへ移入。最近は温暖化の影響で北上中。

雌雄別株。房状の花は、雄花。種子で繁殖。葉は蠅たたき、ほうき、皮の繊維は棕櫚縄に。

日本へ移入時は珍しい植物だったので神社・仏閣などに植えられた。（京都洛中洛外図で八坂神社の門前に蘇鉄とともに植えられている。）

草玩具：子供のころ作って遊んだ思い出がありますね。

シュロ：バッタ、トンボ、カマキリ、カタツムリ、蛇、熱帯魚（民家園で習得）

ススキ：矢

オオバコ：花茎：草相撲、葉：お皿、葉柄：くじ引き

エノコロ草：穂：動く虫

クローバー：花茎：首飾り、腕輪

笹の葉：舟

ウツギ：刀

タンポポ：水車

松葉：引っ張り相撲

虫カゴの中の
草バッタ



2015. 2. 21

3-3 その他の活動

3-3-1 協力者会議～炉端の会・民技会・園の3者による協働

平成16年、博物館界にも行財政改革の嵐が吹き荒れる中、新聞報道された「川崎市市民ミュージアムは赤字会社～民間なら倒産」の記事をきっかけに、当時の民技会会長の提案で、日本民家園でも改革の試みが始まった。

「民家園のこれからを考える会」（H16年度3回）と称し、炉端の会と民技会の会員に広く呼びかけ、両会の有志と園職員がフラットに話し合う場が設定された。事業概要・入園者数長期低落傾向・予算などの説明を受け、フリートーキング「集客力を高めるには」、グループ討議（園の強みと弱み、自分達は何ができるか、何を目指すか（使命）、各自が取り組みたい課題（決意表明））等を行い次年度以降の取り組み方法を検討した。フリートーキングには炉端の会（1-3G18名）、民技会7名、職員6名が集まった。

翌年度には「日本民家園協力者会議」に発展、全体会と作業部会で構成し、3つの条件（今年度中に実施できる、お金がかからない、人手は募集）の下、民家園の魅力を高め集客につながる方策を具体的に検討した。全体会は会長・班長・グループ長・職員など15名位でテーマ選定や方向性を検討し、作業部会は広く両会から会員募集、特定テーマの実行を具体的に考えた。計80余の改善項目から、広報・園内サービス・行事の3部会（年3-5回）ができた。この年度に実施できたのは、スタンプラリー完成スタンプ、チーム発足（フリーガイド、英語ガイド、環境整備、障子張り）、床上公開棟で飲物可、炉端でチラシ配布、ワークシート、行事カレンダー・英文HP充実、着物で歩こう、お月見をしよう等である。

H18年度は条件を変更し（2-3年でできる、予算要求も可）、展示・園内サービスの2部会を追加、雨天時小学校団体昼食場所提供（民家内）、土間ベンチ、民具着用体験（炉端）、火天にべんけい等展示、リーフレットに全棟写真、中国語リーフレット、展示チーム、骨董市、夜間公開、樹木プレート、藍染バンダナ、新絵ハガキ、昔話等が実現した。H19年度には、年間パスポート、園内ガイド、蕎麦店の公園側入場可、文化財集落施設協議会共通HP、両会の情報交換、民技会向け園内ツアー、ポルトガル語リーフレットが実現、5部会は活動を中止しその後は必要時に再開することとなった。H20-21年度に活動したアンケート部会では、アンケートの項目だてや書式を検討作成し、来園者の要望をさぐる手立てとしてその後の協力者会議等で活用している。どの作業部会も全体会も炉端の会や民技会会員の並々ならぬ熱意・企画力・実行力が園を後押しした。

全体会にあたる協力者会議（年3回）は現在まで継続され（議事進行は両会で交替）、当初3年で提案された項目のうち、○実施した 39、△実施半ば・実施したが中止 20、×実施していない 24となっている。ここ数年は、アンケート記述や日常活動を通じて得られる来園者要望の実現や、民家園事業の改善・発展に向けて具体的な方策を検討している。またH26年度は50周年記念事業についても検討した。

（編集委員 15期 日曜 木下）

日本民家園協議会（S60年開始）は園長の諮問機関で、学芸等業務（建築・民俗、及び教育普及部門）、運営管理業務の双方を見渡し、長期的・学術的な視点や社会教育・学校教育・公募市民等幅広い視点からの助言・提言を行っている。また、H21年度からは毎年「事業評価シート」を元に外部事業評価を実施している。H26年度まで、日本民家園条例及び日本民家園協議会規則により設置されていたが、H27年度改選期から組織を変更、川崎市社会教育委員会議の日本民家園部会として、機能を存続させる予定である。

10人の委員で構成。2年任期。

内訳は、学識経験者4人（建築・民俗・博物館学など）、

学校関係者2人（小学校、中学校の社会科研究会長）、

社会教育関係者2人（数年前から1人は家庭教育関係者、文化財友の会、

多摩文化財愛護ボランティア、炉端の会、ままとんきっずなど）、

公募市民2人。

炉端の会会長が出席するようになったのは、H9年度からである。

H9-10年度 今村さん（1G会長）

H13-14年度 林さん（2Gリーダー）← 2Gはリーダーと呼んだ。対外的には1～3Gで交替で会長と名乗った。

H15-16年度 遠藤さん（3G会長）

H17-19年度 由解さん（会長） 3年会長を務めた。

H20-21年度 櫻井さん（会長）

以後、歴代会長が会長に就任している間の協議会委員を担っている。

H26年度は、野田会長がメンバーに名を連ねている。

H21年度から年4回開催（外部事業評価も実施するため、以前より回数増）され、最近の協議内容は、事業評価と園への提言が主になっている。H24年度には、園長から「今後の日本民家園の運営のあり方」について諮問があり、H25年6月に「川崎市立日本民家園における学芸業務の充実にむけて（提言）」と題する答申を行った。

以下は、H26年度第2回（7月）に行われた会議の内容である。

報告 1) H25・26年度予算について（柳さん）

2) 指定管理者の人事関係について（園田さん）

3) 工事（屋根補修・総合防災・耐震補強）について（外山さん）

議事 H27年度事業計画説明・および質疑

連絡 次回日程と今後の予定（内容を含む）

配布資料 H25・26年度予算比較表

H27年度事業評価シート（案）とその添付資料

前回議事録、民家園広報物

（編集委員 10期 土曜 水野）

生田緑地マネージメント会議とは

生田緑地の目指す将来像を示す「生田緑地ビジョン」の実現に向け、多様な主体が管理運営参加する「協働のプラットフォーム」の具体的なしくみとして、「生田緑地マネージメント会議」が設置された。

全体会、運営会議及び自然環境保全管理会議の3つの常設会議と、必要に応じて立ち上げるプロジェクト会議によって構成されている。平成23年10月から合計8回の準備会が開催され、平成25年3月18日に設立総会が開催された。生田緑地の価値と魅力を高め、誰もが気持ちよく過ごすことができる公園とするように、自然の保全と利用の調整を図りながら、生田緑地を市民の財産として持続可能なものとしていくことを目的に活動している。

現在の会員の構成は、市民団体等15、地域団体・大学等18、行政・指定管理者等16の合計50の正会員と準会員1団体で構成されている。そのうちの30会員がコアメンバーとして、中心的な役割を担っている。（以上 川崎市ホームページより抜粋）

炉端の会はコアメンバーではないが、会議の正会員として行政や他の会員とともに運営会議で同じ円卓に座って話し合い、生田緑地の運営に参加している。市民と行政が互いの特性を発揮しながら、連携して課題解決に取り組むことによって、より大きな効果をもたらすことを目指している。

年4回程度の運営会議があり、平成27年度は第1回運営会議が4月24日におこなわれ、野田会長が参加している。



（編集委員 10期 土曜 水野）